

専門性生かしケア

南砺 堀さん(中央病院) 辻さん(市訪問看護) 認定看護師に

特定分野の看護知識や技術に優れた認定看護師一〇一の本年度審査で、南砺市から2人が合格した。緩和ケア分野の堀由紀子さん(南砺中央病院)と、訪問看護分野の辻令子さん(市訪問看護ステーション)で、市内の公的医療機関で合格者が出るのは初めて。高齢化が進む中、専門性を生かしたきめ細かい対応が看護の質向上につながる」と期待される。



患者に笑顔で話し掛ける堀さん—南砺中央病院

高齢患者をサポート

堀さんは患者のケアに関するスキルを高めたいと考え、認定看護師を志した。同病院でがんの緩和ケアは行っていないが、高齢患者が多く、手術後に体のだるさやむくみを訴えたり、精神的に落ち込むケースが少なくない。そのため、がんの緩和ケアの知識を応用したいと考えた。

審査に先立つ教育課程では、患者をありのままに受け入れる

心のケアの重要性を実感した。「学んだ知識をどう実践するかが大事。緩和に関心を持つ同僚と知識を共有し、看護師全体のレベルアップにつなげたい」と言う。柄崎マユミ同病院看護部長は「認定を目指す他の看護師へ道をつくってくれた。専門知識を生かした看護で住民を支えてほしい」と話す。

高齢化を反映し、市訪問看護ステーションの訪問件数は年間

2万件を超す。県内のステーションで最も多い。看護の質の高さも求められる中、辻さんは周

? スーム

認定看護師 医療の高度化や専門化に伴い、日本看護協会が1995年に導入した。熟練した技術と知識で水準の高い看護を実践できる人材の育成が目的。看護師として5年以上の実務経験を積み、看護大などの教育機関で6カ月の課程を修了し、認定審査を受ける。「救急看護」「手術看護」など21分野がある。

囲の勧めもあって認定を目指した。在宅療養者が自ら健康維持に取り組むセルフケアへのサポートなどを学んだ。村井真須美同ステーション所長は、辻さんが基本的に忠実で向上心もあるとし「今後も看護師のけん引役として、学んだ技術と知識を周りに伝えてほしい」と期待を寄せる。市地域包括医療・ケア局は「看護の質を上げ、患者に提供することで、初めて合格した成果があったと言える。今後も研さんを積んで能力を高めてもらいたい」と話す。